

次期姫路市官民データ活用推進計画の 方向性及び骨子案について

令和7年11月20日 令和7年度 第2回姫路市官民データ活用推進会議



次期計画の方向性

第1回会議（これまでの取組の振り返り）を踏まえた次期計画策定の方針

01

「戦略」の立案と ストーリーの明確化

総花的な計画ではなく、目指すインパクトに最短距離で到達するための「戦略」として、ビジョンや注力すべきポイント、ビジョン実現に至るストーリーを明らかにし、着実に地域課題の解決や社会価値の創造につながるように、ゼロベースで見直しを図る。また、現行計画の取組を加速するために策定された「姫路ライフ・デジタル戦略」についても統合を図り、一体的に再構成を行う。

02

2040年を射程とする ビジョンの描出

デジタル技術を取り巻く情勢が目まぐるしく変化する一方で、DXの取組が社会構造の変革や新たな文化の醸成に至るまでには、相応の期間を要することが見込まれる。このため、約15年後、少子高齢化・生産年齢人口減少に起因する問題が噴出すると言われる2040年を射程としてビジョンを描出し、バックキャスティングで施策を立案、実行する。

03

国・県の計画や地方 創生2.0との連動

市町村官民データ活用推進計画として、国の「デジタル社会の実現に向けた重点計画」及び県の「スマート兵庫戦略」を勘案する。また、デジタルの力を活用した地方創生（ひめじ創生）の羅針盤として明確に位置付け、国において先般策定された地方創生2.0の基本構想と連動したものとする。令和7年中に、基本構想に基づく総合戦略が策定される見通しであることから、可能な範囲でこれを勘案する。

04

インパクト・アウトカムの明確化

策定過程において、ロジックツリー及びロジックモデルの構築を行い、各施策が目指すべきインパクトやアウトカムを明確化するとともに、それらに対するKPIを適切に設定することで、施策の成果が上がっているかどうかを検証可能とする。

次期計画のフレーム（案）

タイトル

姫路市デジタル戦略（仮称）

計画期間

令和8年度（2026年度）～令和13年度（2031年度）<6年間>

(前期) 令和8年度～令和10年度 <3年間>

(後期) 令和11年度～令和13年度 <3年間>

姫路市総合計画「ふるさと・ひめじプラン2030」との連動性を考慮するとともに、次期総合計画を勘案して本計画の次々期計画を策定できるように、2031年度までの6年間を計画期間とする。

なお、前期の取組の成果から、必要に応じて後期における計画内容の大幅改訂を実施する。

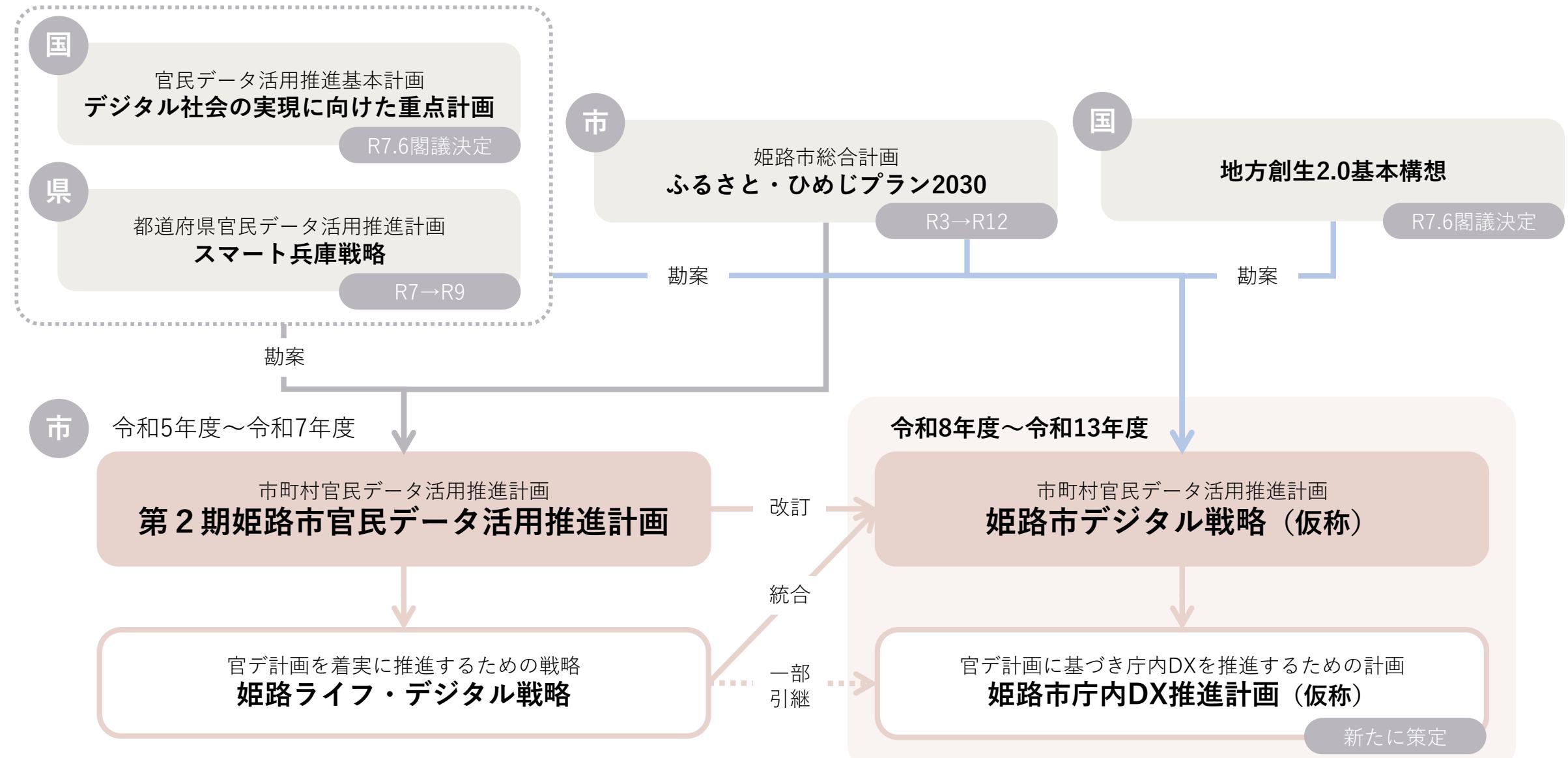
見直しについては、前期/後期の切れ目に限らず、国等の動向やデジタル技術の趨勢を鑑みて、隨時柔軟に改訂を行うものとする。

位置付け

- 官民データ活用推進基本法に基づく市町村官民データ活用推進計画
- 姫路市総合計画「ふるさと・ひめじプラン2030」に基づくデジタル分野の個別計画
- デジタルの力を活用した地方創生（ひめじ創生）の羅針盤
- 姫路市における地域DX^(*)施策の方向性を示す総合的な計画

*：地方公共団体が進める、DXによる社会課題解決の取組の総称。住民目線に立った行政サービスを展開する「自治体DX」と、様々な政策分野における社会課題解決に取り組む「地域社会DX」から構成される。
(総務省の定義による)

デジタル関連計画・戦略等との関係



国・県の計画及び地方創生2.0基本構想との整合

国・県の計画等

対応の方向性

デジタル社会の実現に向けた重点計画

(官民データ活用推進基本計画)

令和7年6月13日閣議決定

<取組の方向性と重点的な取組>

1. AI・デジタル技術等のテクノロジーの徹底活用による社会全体のデジタル化の推進
2. AI-フレンドリーな環境の整備（制度、データ、インフラ）
3. 競争・成長のための協調
4. 安全・安心なデジタル社会の形成に向けた取組
5. 我が国のDX推進力の強化（デジタル人材の確保・育成と体制整備）

AI等の新技術を徹底活用するとともに、AI活用を念頭に置いたデータ流通環境を整備する。国の動向を注視し、共通のデジタル基盤を適切に活用する。

スマート兵庫戦略

(都道府県官民データ活用推進計画)

令和7年3月改訂

<基本姿勢>

- ① データ利活用による変革
- ② デジタル技術の徹底活用
- ③ 多様な主体との連携
- ④ 機動的で継続的な改善
- ⑤ 誰一人取り残されない、人に優しいデジタル化

<4つの柱>

- I. 行政のデジタル化
- II. 暮らしのデジタル化
- III. 産業のデジタル化
- IV. デジタル社会を支える基盤の確立

多様な主体が連携し、行政・暮らし・産業のデジタル化を一体的に推進する。また、共同調達・共同利用等の広域連携に向け、協調して取組を進める。

地方創生2.0基本構想

令和7年6月13日閣議決定

<目指す姿>

- ① 「強い」経済
- ② 「豊かな」生活環境
- ③ 「新しい日本・楽しい日本」

<政策の5本柱>

1. 安心して働き、暮らせる地方の生活環境の創生
2. 稼ぐ力を高め、付加価値創出型の新しい地方経済の創生
3. 人や企業の地方分散
4. 新時代のインフラ整備とAI・デジタルなどの新技術の徹底活用
5. 広域リージョン連携

若者や女性が安心して働き、暮らせる地域をつくるとともに、多様なイノベーションの創出による地域経済の活性化や質の高い人材の育成を目指す。

次期計画の概念的な構成（案）

Why

ビジョン

What

戦略

How

戦術



2040年の姫路市の姿

ビジョン実現のための方向性

コア事業に注力しつつ、
地域環境/デジタル基盤を整備

戦略実現のための具体的手段

核となる施策を盛り込み、
施策ごとのロードマップ/KPIを設定

バック
キャスティング



次期計画の骨子案

次期計画の目次（案）

第1章

はじめに

- 本市を取り巻く社会情勢
- 本市の取組の現在地（これまでの成果と課題）

第2章

計画の目的等

- 本計画の目的
- 本計画の位置づけ
- 計画期間

第3章

ビジョンと戦略

- 2040年のビジョン
- ビジョン達成のための戦略

第4章

重点施策

- コア事業レイヤー
- 地域環境レイヤー
- デジタル基盤レイヤー

第5章

推進体制・評価

- 推進体制
- 推進にあたっての行動指針
- 評価指標（KPI）



第1章

はじめに

今、本市を取り巻く社会環境は、かつてないスピードで、しかも根本から変化しようとしている。こうした予測困難な時代において、本市が持続的に発展し、すべての住民が豊かさと幸福を実感できる未来を築くためには、**デジタル技術を有効に活用した抜本的な変革、すなわちDX（デジタル・トランスフォーメーション）の推進が不可欠**である。

本戦略は、上記の認識のもと、特に以下の3つの大きな潮流を正確に捉え、これから本市のまちづくり、とりわけ**デジタルの力を活用した「ひめじ創生」の羅針盤として策定する**ものとする。

(1) 人口減少と労働力不足の進行 (直面する課題)

- 本市においても、人口減少と少子高齢化の進行は、地域の存続の基盤を揺るがす喫緊の課題。
- 生産年齢人口の減少は、行政サービスの維持を困難にするだけでなく、地域産業の活力・競争力低下に直結。
- 人手不足による事業継続の断念、イノベーションの停滞などの課題に対し、デジタル技術による生産性の飛躍的向上と、新たな付加価値を創出するビジネスモデルへの変革が必要。

(2) デジタル技術の加速度的進化 (変革の手段)

- 一方で、この難局を乗り越えるための強力な手段も、加速度的に進化。その代表格が、近年急速に社会実装が進む「生成AI」及びその関連技術である。
- これまで困難であった地域課題解決への扉を開く大きな可能性を秘めている一方、いわゆる「ハルシネーション」や著作権侵害、犯罪等への悪用、人が担ってきた労働の代替による影響など、新たな問題も発生。
- 問題に対応しつつ有効な活用方法を模索する、難しい舵取りが求められる。

(3) “ウェルビーイング”の概念への注目 (追求する価値の変化)

- 目指すべき社会の姿も、より高次のものへと変化。
- 「身体的・精神的・社会的に良好で満たされた状態」を示す「ウェルビーイング」の概念が注目されており、国のデジタル田園都市国家構想においても、「心豊かな暮らし（Well-Being）の実現」が主要な目標として掲げられている。
- 本市においても、市民一人ひとりの多様な幸福の実現に関する包括的な価値概念としてこれを重視し、DXを進める必要がある。

前節で述べた現状認識のもと、本市においても、前身の計画である「第2期姫路市官民データ活用推進計画」に基づき、大きく以下の2つの取組を通じて、デジタル化・DXの推進に努めてきた。これら一連の取組は、本市のデジタル化・DXを次のステージに進めるための確かな土台となるものである。

(1) 姫路版スマートシティの推進

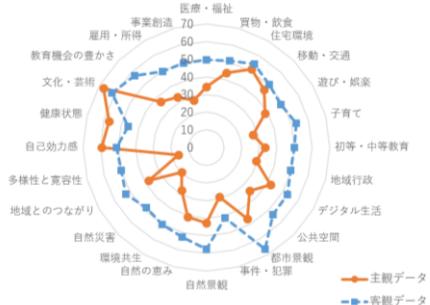
- 「生まれる前から就職し自立するまでを『子育て』と捉え、保護者と子どもに対する一貫した切れ目のない子育て支援を行う」ことにフォーカスし、母子健康手帳アプリを通じた乳幼児健診・小児予防接種のデジタル化や、多様な学びに触れるこことできる学習プラットフォームの実装など、子育てや教育分野に関するDXを推進。
- この結果、核となるサービス・基盤の整備が進むとともに、これらの取組を通じて、本市がデジタル技術を活用して目指すべき未来に対する解像度が着実に向上したと言える。

(2) 自治体DXの推進

- 本市の「自治体DX」として、デジタルを活用した行政事務の効率化や市民との接点の充実化・高度化、その土台となる庁内デジタル人材の育成やデジタル・デバイド対策等、包括的に取組を進めてきた。
- 行政手続のオンライン化率は着実に向上し、市民の利便性向上が図られたほか、庁内向けの生成AIソリューションの導入や、市民向け福祉相談AIの実証実験に着手するなど、生成AIを活用した先進的な取組も着実に進展している。

しかしながら、これらの「点」としての成果が、市民一人ひとりの生活の質や幸福度の向上として、暮らし全体で幅広く実感される「面」としての効果に直結したかを問われれば、その実感はまだ十分とは言えない。

さらに、地方創生の最大の目標である人口減少の緩和や、避けられない未来としての人口減少社会への適応といった根本的な成果に着実に結びつけるには至らなかったことを、厳しく認識する必要がある。



従来の延長線上にある取組だけでは、もはや時代の変化のスピードに対応できない。

この厳しい現状認識に立ち、本戦略では、これまでの取組で得られた成果と基盤を最大限に活かしつつ、前計画までのアプローチを以下のとおり抜本的に見直す。

- ・ デジタル技術を取り巻く情勢が目まぐるしく変化する一方で、DXの取組が社会構造の変革や新たな文化の醸成に至るまでには、相応の期間を要することが見込まれる。このため、少子高齢化・生産年齢人口減少に起因する問題が噴出すると言われる「2040年」を射程としてビジョンを描出し、バックキャスティングで本計画の期間内に実行すべき施策を立案する。
- ・ ビジョン達成のために真にリソースを投下すべき分野・取組を特定することで、より戦略的にデジタル化・DXに取り組む。



真に「市民のウェルビーイングの実現」と「地域の持続可能性の確保」という成果にコミットするため、新たな羅針盤として本戦略を策定し、DXを強力に推進することをここに宣言する。



第2章

計画の目的等

1. 本計画の目的

- 急速な人口減少の抑制だけでなく、人口減少の潮流を所与のものとして受け止め、これに適応するための施策を行うことが必要。
- 本計画は、「市民のウェルビーイングの実現」と「地域の持続可能性の確保」を目指して、デジタル技術及びデータを最大限に活用し、人口減少社会への適応を含めた地方創生（ひめじ創生）策を効果的に推進することを目的とする。

2. 本計画の位置付け

- 官民データ活用推進基本法（平成28年法律第103号）第9条第3号に基づく**市町村官民データ活用推進計画**
- 姫路市総合計画「ふるさと・ひめじプラン2030」に基づく**デジタル分野の個別計画**
- デジタルの力を活用した地方創生（ひめじ創生）の羅針盤**
- 本市における**地域DX施策の方向性を示す総合的な計画**

3. 計画期間

- 令和8年度（2026年度）～令和13年度（2031年度）<6年間>**
- 前期：令和8年度～令和10年度<3年間>/後期：令和11年度～令和13年度<3年間>に分け、**前期の取組の成果から、必要に応じて後期における計画内容の大幅改訂を実施する。**
- 見直しについては、前期/後期の切れ目に限らず、国等の動向やデジタル技術の趨勢を鑑みて、隨時柔軟に改訂を行う。

第3章

ビジョンと戦略

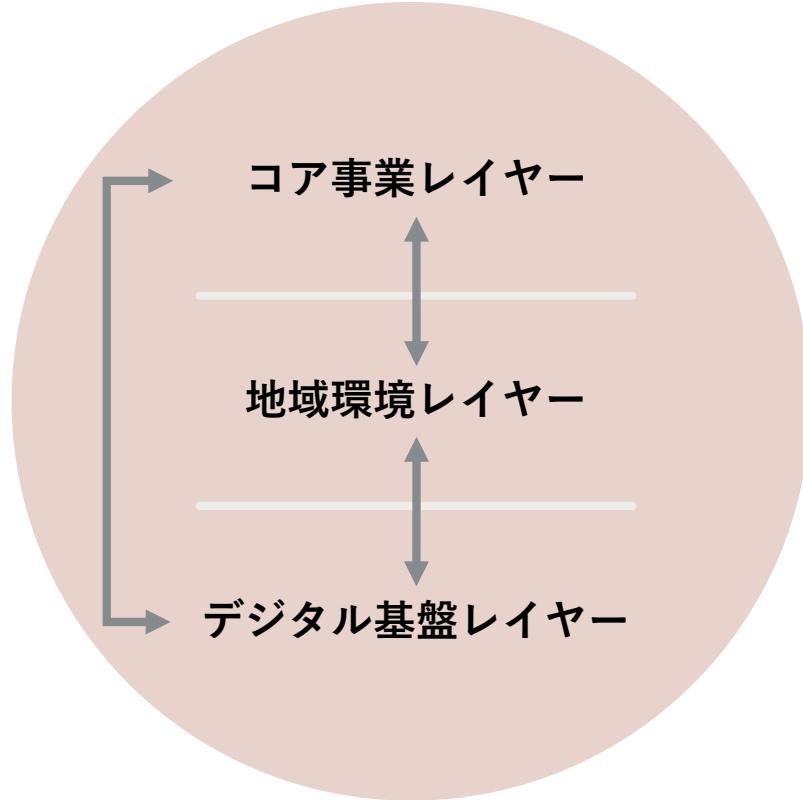
2040年のビジョン

一人ひとりの“好き”や“得意”が、 地域のウェルビーイングにつながる姫路（まち）



具体的なまちの姿

- ・姫路が、「子どもの“好き”や“得意”の発見のフィールド」及び「若者の自己実現のユニークな舞台」となっている。地元企業・既存産業との多様な化学反応や、若者が地域課題の解決に取り組む姿が、まちの至るところで観測される。
- ・必要な支援とすぐにつながる/必要な情報が手元に届く/希望を行政に伝えられる/子どもが生き抜く力を身に付ける環境が整い、子育ての不安が払拭されている。
- ・これらにより、定住と子育ての循環による人口減少の緩和のみならず、一人ひとりの人的資本としての質向上による人口減少への適応が図られ、その成果が、地域経済の循環や賑わいの創出といった形で、広く他の世代にも波及している。
- ・また、上記のような世代間の「間接的な恩恵の波及」から、多様な世代の“好き”や“得意”を通じて、例えば、若手農家がIoTやドローンを駆使して栽培した野菜を他の世代が購入するような「間接的な交流」、大学生が高齢者を対象にAI見守りアプリの検証を行ったり、若者のAI活用の知見と旧来のものづくりの経験を融合してイノベーションを生み出したりといった、顔の見える「直接的な共創」まで、グラデーションをもつ多様なつながりによって、豊かで温かなコミュニティが築かれている。



- 前節のビジョンを達成するための「コア事業」として、未来の源泉であり地方創生のエンジンとなる子ども・若者の成長と挑戦を支えることに注力するとともに、官民の連携とコア事業の果実をもって、「地域環境」として全世代の暮らしの質向上を図る。
- このことによって醸成された安心感が次世代の挑戦を支えるという、“ウェルビーイングの好循環”を実現する。
- あわせて、この好循環を支える土台（仕組み・人材・インフラ）としての「デジタル基盤」を構築する。

これらを、

- ① コア事業レイヤー
- ② 地域環境レイヤー
- ③ デジタル基盤レイヤー

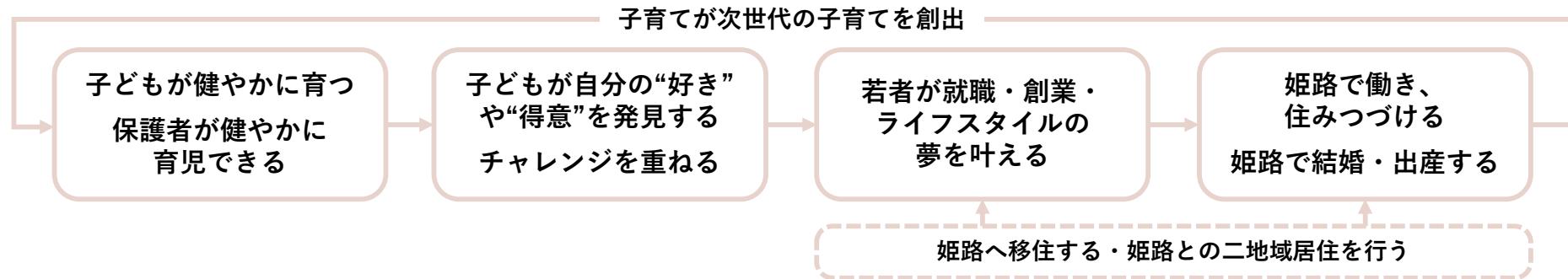
の3層構造として有機的に機能させることで、ビジョンの達成に向けて着実に成果を創出する。

コア事業 レイヤー

◎姫路における子ども・若者の成長と活躍

子どもが生まれる前から自立するまでを「子育て」と捉え、保護者・子ども双方に対する切れ目のない支援を行うことを通じて、子ども・若者がチャレンジを重ねながら成長し、最終的に地域経済の循環や地域課題解決の担い手となるまでを一貫して支える。（＝姫路版スマートシティ事業）

«対象領域» 母子保健・健康、子育て、教育、労働・産業



地域環境 レイヤー

◎心地よい生活環境と多様なつながりの創出

あらゆる世代が安心して日々の暮らしを紡ぎ、コア事業レイヤーで生み出される活気を享受し、その担い手を応援しながら、自らも“好き”や“得意”を活かすことのできる生活環境とコミュニティを構築する。

«対象領域» 医療・福祉、モビリティ、防災・防犯、経済活性化、市民共創・コミュニティ活性化

デジタル基盤 レイヤー

◎コア事業・地域環境を下支えするデジタル推進基盤の確立

コア事業レイヤー及び地域環境レイヤーを支えるための仕組み・人材・インフラを構築する。

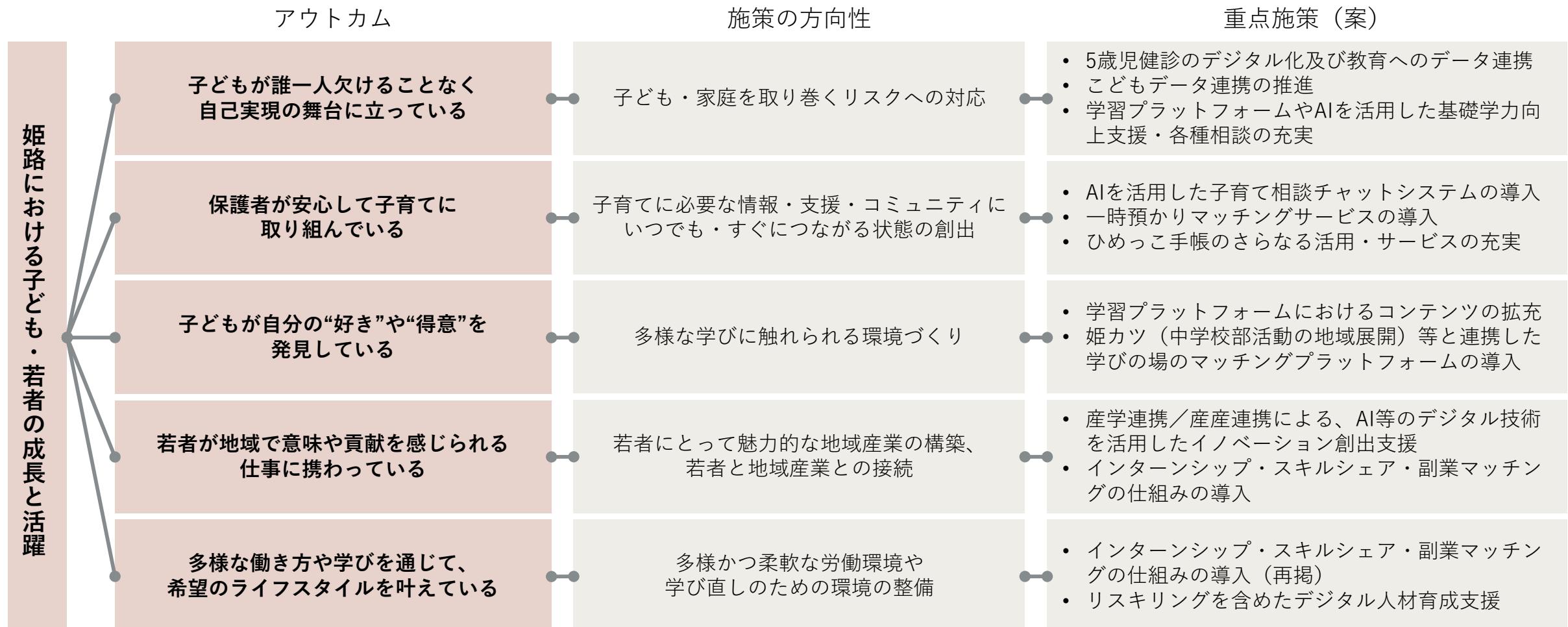
«対象領域» デジタル・デバイド対策、データ利活用環境整備、自治体DX



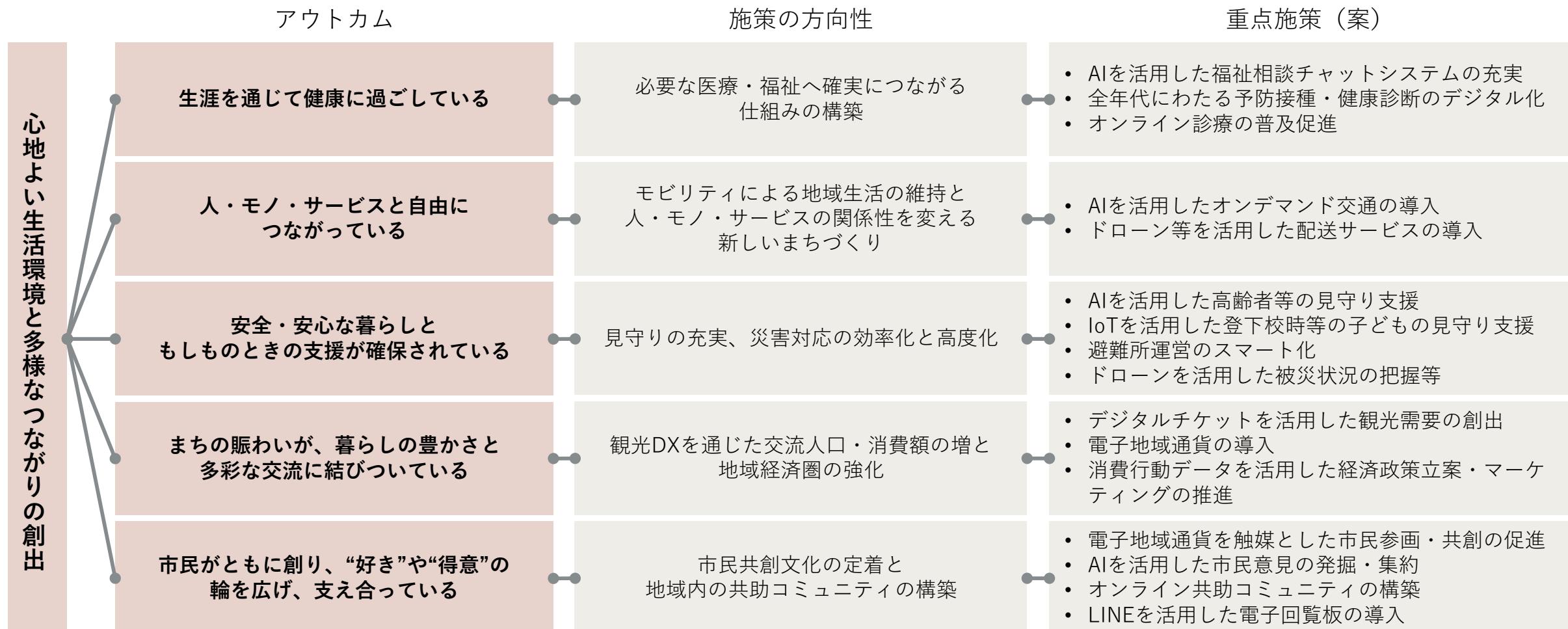
第4章

重点施策

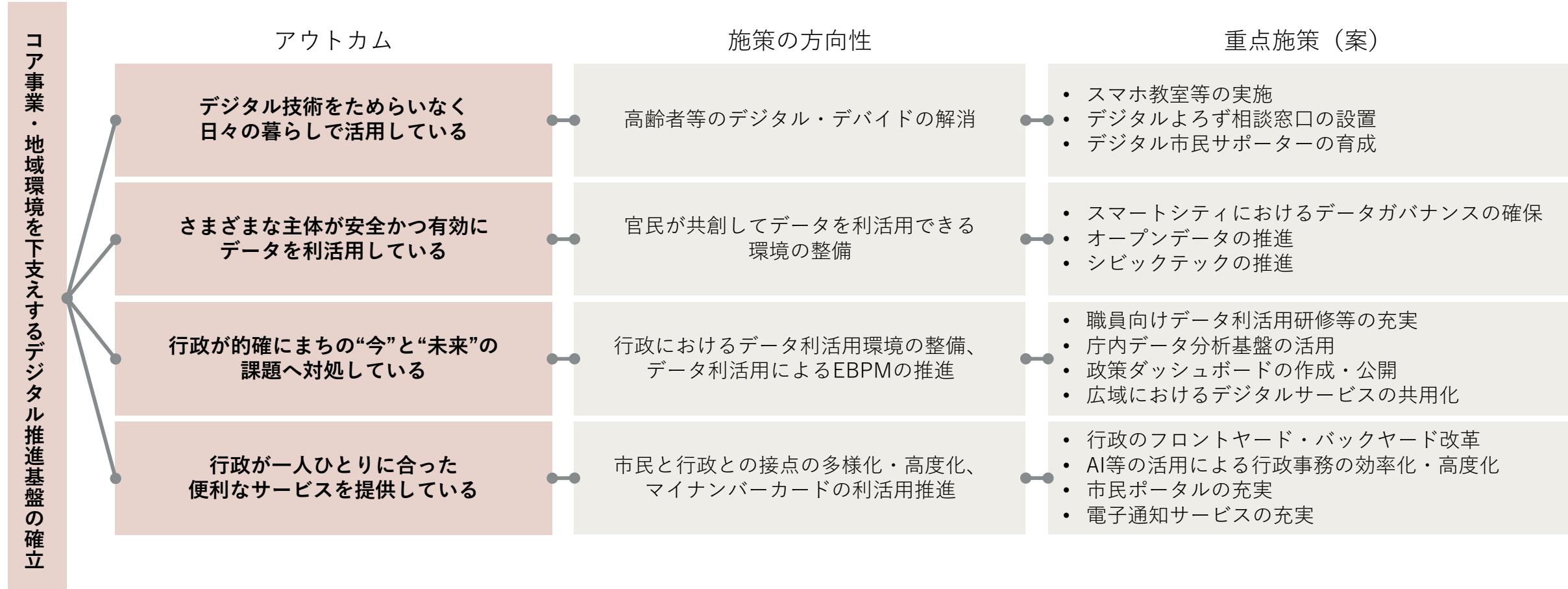
1. コア事業レイヤー



2. 地域環境レイヤー



3. デジタル基盤レイヤー

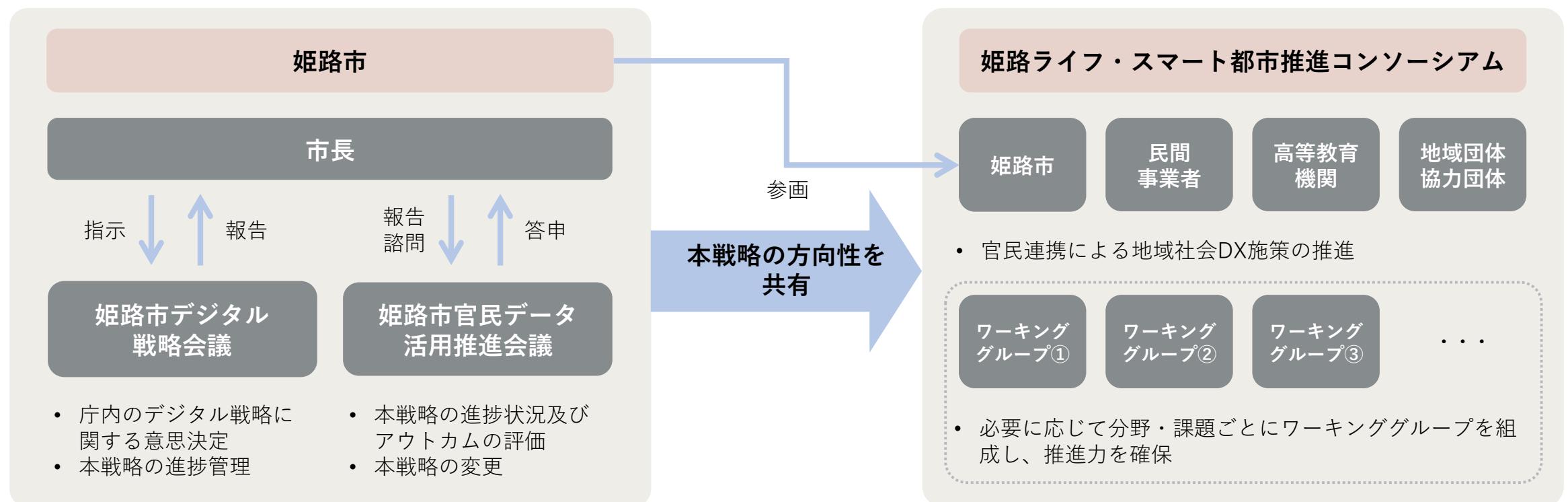




第5章

推進体制・評価

- ・ 庁内のデジタル戦略に関する意思決定機関である「姫路市デジタル戦略会議」で本戦略の進捗状況を管理する。
- ・ また、本戦略の策定・変更について審議を行う附属機関である「姫路市官民データ活用推進会議」を定期的に開催し、本戦略の進捗状況及びアウトカムの評価を行うとともに、必要に応じて本戦略の改訂についても審議を行う。
- ・ 姫路版スマートシティ事業を推進するための官民連携の枠組みとして組成された「姫路ライフ・スマート都市推進コンソーシアム」について、本戦略の方向性に基づき地域社会DX施策を推進するための官民連携の共同体として位置づけを見直し、強化を図る。



本戦略を「絵に描いた餅」にしないために、推進体制の構築はもちろんのこと、刻一刻と変化するデジタルを取り巻く情勢や市民のニーズにしなやかに対応し、その時々に応じた最適な戦術を取り続けることが肝要である。このため、以下の行動指針のもと、本戦略における施策を推進するものとする。

(1) 全体最適の視点

部門ごと・分野ごとの行政都合の部分最適ではなく、取組の趣旨を敷衍し、取組同士の連携・部門を超えた展開など、中長期をも見据えつつ、市民の課題を広く・深く・最小コストで解決するため、全体最適の視点で施策を実行する。

(2) アジャイルなアプローチ

過剰な計画・規制・作り込みを排し、小さなステップでも、一遍に完成できなくても、成果が見込まれる取組に着手することで成功体験を積み重ねるとともに、継続的な改善のサイクルをスピーディに回していく。

(3) 効果的な広報

ターゲットに即した効果的な情報発信により認知度を高め、サービスの利用率を向上させるとともに、本計画や施策のもたらす価値を人間中心の視点で語ることで、市民の共感を得るために努める。

(4) 市民の声の収集と反映

市民の生の声を聴き、得られた示唆を反映してアップデートを重ねることで、市民の支持と共創意識の向上を図る。また、市民モニターの参画により、サービスの実装・改善の過程で実際に使っていただくことで使い勝手等を検証し、サービスの質を高める。

《コア事業レイヤー》

- KPI①
- KPI②

《地域環境レイヤー》

- KPI①
- KPI②

《デジタル基盤レイヤー》

- KPI①
- KPI②

詳細検討中

レイヤーごとにアウトカムを測定する指標を
2つ程度設定する想定



住むほどに
好きが深まる
姫のまち